

2022年6月15日  
日本メジフィジックス株式会社

## 「次世代抗体医薬品の開発を加速する RI 標識に関する基盤技術開発と RI 標識抗体医薬の実用化研究」に関する共同研究契約を締結 ～複数の研究機関と国際競争力の獲得を目指す～

日本メジフィジックス株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役社長:田村伸彦)は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の令和3年度「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業(国際競争力のある次世代抗体医薬品製造技術開発)」に採択<sup>\*1</sup>された研究開発課題「国際競争力のある次世代抗体医薬品製造技術開発／次世代抗体医薬品の製造基盤技術開発(次世代抗体医薬品の開発を加速する RI<sup>\*2</sup> 標識に関する基盤技術開発と RI 標識抗体医薬の実用化研究)」に関して、群馬医療福祉大学、京都大学、次世代バイオ医薬品製造技術研究組合、理化学研究所、慶應義塾大学医学部と2022年3月2日付で共同研究契約を締結しましたので、お知らせいたします。



抗体医薬品は、抗体が特定の抗原に作用する仕組みを利用したもので、治療効果が高く副作用が少ない医薬品としてがんの治療等で注目されています。中でも、抗体薬物複合体<sup>\*3</sup>や二重特異性抗体<sup>\*4</sup>、RI等を利用した抗体を用いた機能付加型の次世代抗体医薬品は、より高い治療効果が期待されています。しかしながらその製造技術の多くは海外に依存しているため、国内の産官学連携による国産の次世代抗体医薬品の技術開発に大きな期待が寄せられています。本契約に基づく共同研究では、次世代抗体医薬品である RI 標識抗体医薬品について、国際競争力のある国産の製造技術の確立や実用化を見据えた技術開発を行います。

当社は、核医学におけるセラノスティクス(診断と治療の融合)<sup>\*5</sup>の早期実現を目指し、抗体などにがん治療用の放射線を出す RI を標識した医薬品の実用化に向けて研究<sup>\*6</sup>を重ねてまいりました。今回の共同研究においても、これまでに培ってきた RI 標識のノウハウを基に各研究機関と協働し、国際競争力のある RI 標識抗体医薬品の実用化を目指してまいります。

\*1 : AMED 公募採択情報 [https://wwwAMED.go.jp/koubo/11/01/1101C\\_00005.html](https://wwwAMED.go.jp/koubo/11/01/1101C_00005.html)

(現在の研究開発代表者は群馬医療福祉大学 医療技術学部 辻 祥太郎教授)

\*2 : ラジオアイソトープ(放射性同位元素)、放射線を出すことで治療や診断に使用される

\*3 : 高殺細胞効果をもつ薬物を結合させた抗体

\*4 : 1つの抗体が2つの異なる抗原に結合するように設計された抗体

\*5 : 治療(Therapeutics)と診断(Diagnostics)を融合した造語。核医学においては薬物が標的とするたんぱく質に到達するかをあらかじめ診断により確認した後に、放射性核種を治療用核種に変えて治療を行う概念。これにより、治療と診断がより密接に関連することになるため、個別化医療や医療費の有効活用への貢献が期待される

\*6 : AMED の平成29年度「医療研究開発革新基盤創成事業(CiCLE)」(第2回)に研究課題「セラノスティ

イクス概念を具現化するための創薬拠点整備を伴う、抗体等標識治療薬（アルファ線）とコンパニオン診断薬の開発」が採択された

## 日本メジフィジックス株式会社について

日本メジフィジックスは、日本における放射性医薬品のリーディングカンパニーとして、製品の安定供給と研究開発に日々取り組んでいます。さらに、これまでに培った技術力と信頼をベースに、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供する新しい医療技術「セラノスティクス(治療と診断の融合)」の研究開発や、ライセンス供与などを通じたアジア諸国での核医学の普及に取り組んでいます。そして、これからも生命関連企業としての価値創造を継続し、社会に貢献してまいります。

Web サイト: <https://www.nmp.co.jp/>

### 本件に関するお問い合わせ先:

日本メジフィジックス株式会社 総務部渉外広報グループ 担当:川副 (かわそえ)

Tel:03-5634-7006 E-mail:nmp\_press@nmp.co.jp